



令和7年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【星が丘地区】

令和8年3月31日現在

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	星が丘地区自治会DX化促進会	自治会回覧板のDX化	電子回覧を導入して3年目となるが、令和6年度に電子回覧システムの作り直しを行ったため、電子回覧の登録募集ができず、登録者数が目標よりも低い状況である。今後も継続して電子回覧を行うために、令和7年度では登録者を増やし、電子回覧の事業を地区内に浸透させる必要がある。	令和6年1月に電子回覧の登録申込を開始し、令和7年3月末時点で登録者は133名である。星が丘地区全体として、電子回覧の認知度は未だに低いため、今年度は周知に力を入れ、登録者を増やすことを目的とする。 《令和5年度から引続き掲げている事業目的》 ・電子回覧の導入により役員及び自治会員の負担を軽減することで、脱退防止を目指す。 ・ホームページにも回覧情報を掲載し、自治会未加入者にも自治会活動を周知し、興味を持ってもらうことで自治会加入促進を目指す。	○事業内容 ①電子回覧（メールマガジンの配信）の実施 ②電子回覧の周知 ・地域情報紙に掲載 ・電子回覧の登録案内用チラシを作成し、回覧を実施 ・自治会長会議で自治会長へ周知 ○事業スケジュール 4月以降電子回覧配信 5月以降地域情報紙で電子回覧を周知 5月 自治会長会議で周知 9月 チラシ配布 1月 地区内企業へ広告の打診・打ち合わせ	R7.5.21	135,000	135,000	135,000
2	すずかけのき再生プロジェクトチーム	すずかけのき再生プロジェクト	星が丘公民館の改修工事に伴い伐採されたスズカケノキが、令和6年度の事業で羽子板やけん玉、KUMINO（きぐみのつみき）へ生まれ変わった。出来上がった玩具を使うことで、木の香りや木目等を体感してもらいつつ、子どもから高齢者まで楽しい時間を過ごすことができた。 令和7年度では、予算の関係で見送った独楽とKUMINO（昨年度の数では、複数人で組み立てるには足りない）をスズカケノキで作ってもらい、星が丘地区の住民たちがスズカケノキに触れる機会を増やしていきたい。	・スズカケノキを伐採のまま終わりにせず、木材から星が丘地区に還元できるような物を作り、スズカケノキという存在を絶やさないこと。 ・知育や木育、世代間交流に繋がる物をスズカケノキで作ることで、星が丘地区の歴史を伝え続ける一助にするとともに、星が丘地区内の住民同士の交流や学習にも寄与すること。 ※知育…創造力や考察力等を養うこと 木育…木とふれあい、木や森に興味を持ってもらうこと	○事業内容 (1)昔遊びで多世代交流 製作物:独楽 40個 ・毎年、地区社会福祉協議会が主体となり、地域の住民が星が丘小学校1年生に、学校の授業時間に昔遊び（羽子板、けん玉、独楽、竹馬）を教えているが、長年の使用により壊れてしまった玩具もあるため、昔遊びの道具をスズカケノキで作る。 ・子どもたちにはスズカケノキの玩具を通じて、木のぬくもりや星が丘地域の歴史としてスズカケノキがあったことを知ってもらおうとともに、自分より年代が上の世代との交流を楽しんでもらう。 (2)KUMINOで頭の体操（仮称） 製作物:KUMINO 210個 ・知育、木育、認知症予防を目的とし、子どもから高齢者まで幅広い世代にKUMINOを利用してもらう。 ・多くの子どもがKUMINOに触れられるようにワークショップを開催する。 日 時:令和7年11月29日（土） 10:00～12:00 場 所:星が丘公民館 大会議室 対 象:星が丘地区内の小学生	R7.5.28	564,000	564,000	564,000
3	地域の高齢者の生活を考える会	緊急時安心サポート事業	・単身高齢者世帯や高齢者のみの世帯の増加。 ・認知症予備軍の増加。 ・高齢者は「急病による救急対応」や「道に迷って保護される」など他の年代よりも多い。 ・上記の際に個人情報分が分からず、適切な対応を受けられないことがあるため、平成29年度、令和元年度に「とっさの時の安心カード」を配布した。当時から数年が経過し、記入内容にも変更がある可能性を考慮して再度配布をする。 ・前はカードのみだったが、カードの説明、保管方法について、利用者から意見があったので、今回は安心カードだけでなく、利用目的カード、カードケースをセットし配布する。	・地域住民が急病による救急対応や道に迷う等で保護された際に適切な対応を受けることができる。 ・地域住民が住み慣れた地域でできる限り生活続けることができる。 ・自治会加入率が減少しているので加入促進を図る。	○事業内容 ・「とっさの時の安心カード」は前回の残りを利用し、新たに「利用目的カード」「カードケース」を作成し、セットで配布する。 ・「利用目的カード」に自治会加入促進の文章を入れる。 ○事業スケジュール ・80歳以上の高齢者に戸別訪問して配布。【9月】 ・自治会連合会や包括支援センターにおいては各行事等の参加者に配布する。【9月以降】 ・地域情報紙を通して希望者に随時配布する。【10月】	R7.7.22	137,138	137,000	137,000

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要（申請時）			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
4	ビー フレンド	地域を知り利用し皆友達プロジェクト	地域には多くの施設があるが、障がい者施設を知る人は少なく、また、外国人も近所に多く住んでいるが交流がない状況である。障がい者施設や外国人のことを知ってもらい、皆で認め合っ て共存していくことで、ごみの出し方等地域の課題解決や、みんなで障がい者施設を応援できる地域を目指し、当該事業を実施することとした。	・公民館の敷地内で障がい者施設や外国人、地域住民が販売会を実施することで、今まで公民館を利用した事がない人が公民館を利用し、交流を深めてもらうこと。 ・販売をしている施設利用者等と地域住民が会話をすることにより、住民が施設を知り、販売会だけでなく施設のイベントに参加することや、施設同士も交流を深めて一緒に何かを達成することが出来るようになること。 ・販売会をきっかけに公民館の存在を知ってもらい、気軽に公民館へ足を運んでもらうようになること。	公民館の出入り口横の軒下部分で、机2台を並べ、周辺にのぼり旗を立てアピールしながら、定期的な販売会を実施する。 販売会では、近隣の社会福祉法人等の公共的な団体や地域住民と連携し、当該施設で作られた小物・食べ物の販売や、地域の家庭菜園で収穫されたものや不用品等を販売する。 地域情報紙に出店者の募集や販売会の周知を行い、また、英語や中国語等を併記したチラシを公民館や各施設等に配架する。 販売会は令和8年1月から実施予定。	R7.9.22	99,000	99,000	99,000
							935,138	935,000	935,000